

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和3年10月19日（火）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：黒川長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから10月19日の原子力規制庁、定例ブリーフィングを始めます。

○黒川総務課長 報道官の黒川です。

お手元の広報日程に沿いまして説明をいたします。

明日の定例会の議題は3つあります。

議題の1つ目、柏崎刈羽のフェーズⅡの検査計画ということになります。

この検査計画には、主にどういった点を重点的に検査するかといったことが書かれているものになります。例えば、こういうことをもうちょっと追加的に事実関係を確認すべきという話とか、あるいは東電の改善措置みたいなことが書いてあるわけですが、その中身を詳しく確認して、効果を把握するといったことが書かれていることになります。

その計画が明日了承されましたら、されると思いますけれども、明日、同日にフェーズⅡの開始ということになります。

現地柏崎刈羽での最初の検査は、その翌週になりそうで、具体的にいつみたいな話はまた追ってお知らせすることになると思います。

次に、議題の2つ目ですが、放射線障害予防規程に定めるべき事項に関するガイドということになります。

これは元々を辿れば、IRRSの勧告を受けまして、測定の信頼性のためのRI法の施行規則。規則自体は昨年9月に改正されて、その3年後。つまりは今から2年後の10月に施行されるということになっているものです。

それまでにガイドを3本決めなくてはいけないのですが、この予防規程のガイドと、あと審査のガイドと立入検査のガイドという3本のガイドを作る必要があるようですが、今回はそのうちの予防規程のガイドを先行して改正することにして、素案を諮るというものになります。

予防規程に具体的に記載すべき事項として、ISOで定められた方法でやるということですか、機器の点検や構成を定期的にするといったようなことを定めるということのようです。

議題の3つ目ですが「日本版インフォメーション・ノーティス」と書いてありま

すが、日本版という意味は、元はアメリカのNRCの制度ということになりますけれども、規制要求するまでには至らないのですけれども、被規制者に周知をすべきという事故があった場合に、インフォメーション・ノーティスという共通のフォーマットで、共通の番号をつけて示すといった仕組みがありまして、その日本版を新しくやることにして、その骨子を踏るということになります。

例えば、安全研究の結果とか海外事例から得られた知見とか、検査で得られた気づき事項のほかの事業者への横展開といったようなことを、このフォーマットで共通の番号振って周知するといったような案であります。

以上が定例会の議題でありまして、同じ日、臨時会議でJAEAとの意見交換があるというのは、既にお伝えしているとおりです。

次、裏に行きまして、10月25日の(5)1Fの廃炉・事故調査に係る連絡・調整会議ということで、廃炉と事故調査の作業が干渉し合わないよう、規制庁とエネ庁と東電などで設けている調整会議ですけれども、今回の議題は、議題1と2は既に事故分析検討会でも議題になっていますシールドプラグの検討、ケーブルの加熱試験といったものです。それに加えまして、議題3と4を今後やるというような話のようでした、議題3が配管の撤去をするときに併せてその調査もするといったこととか、議題4で3Dレーザースキャナなどでの測定を常時定点でしたいといったことについて議題になるといったようなものということでもあります。

説明は以上です。

<質疑応答>

○司会 皆様からの質問をお受けします。いつものとおり所属とお名前をおっしゃってから質問のほうをお願いいたします。質問のある方は手を挙げてください。

エンドウさん、お願いします。

○記者 新潟日報、エンドウです。よろしくお願いします。

聞き間違えていたら申し訳ないのですけれども柏崎刈羽の件で、フェーズⅡの開始が同日というのは、明日開始に。

○黒川総務課長 明日検査計画が了承されれば、その同じ日にフェーズⅡのスタートということになります。

○記者 記憶だと、たしか先週までだと柏崎刈羽に入った日をフェーズⅡにするという。

○黒川総務課長 そこを改めて整理をしまして、検査計画決定した日に、紙で、文書で一応こういうことをしますという通知を出して、それは別に実務的な通知なので、別に現地の検査と一緒にやるわけではないのですけれども、実務的な通知を出して、それをもってフェーズⅡのスタートとすると。それはその日のうちにやるという方針のようですので、結果として明日了承されればフェーズⅡがスタートになるということのようです。

○記者 具体的にはその翌週入るときが、いわゆる2,000時間のスタートという意味では翌

週になるのでしょうか。

○黒川総務課長 実際の検査のスタート、その2,000時間というもののスタートは、その翌週にということになります。

○記者 分かりました。ありがとうございます。

○司会 ほかに御質問はございますでしょうか。

では、エムラさん、お願いします。

○記者 読売新聞のエムラです。

同じく柏崎刈羽原発の関係で、スタートは何時ぐらいに。何をもってスタートしたと。時制を過去形にすればいいのかというところはいかがでしょうか。

○黒川総務課長 そこは実務的な手順としては、検査計画が決まって、このようにやることになりました、よろしくみたいな通知文を柏崎で渡すと。要は新潟、現地のほうで通知文を渡すということが行われて、そのときをもってスタートということになるのでしょうかけれども、だから若干タイムラグはあるというか午後にはなると思います。

○記者 午後とか夕方とかに、そういうのを通知しましたという受理をもって、例えばホームページにアップするとかメールするとか、そういう何かアナウンスは予定されていますか。

○黒川総務課長 今のところ予定されていないのですが、一応そのスタートという時間が大事なのであれば、そこは考えたいと思います。

○記者 4時とか5時とか、その時間にメールをいただければ、その時点をもって報道は「する」を「した」に変えるので御検討をお願いします。

○黒川総務課長 分かりました。

○司会 ほかに御質問はございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

では、オカダさん、お願いします。

○記者 毎日新聞のオカダです。

今ほどのお話のその検査計画が了承されてから通知文を渡すという、この通知文というのは、これは原子力規制委員会からどこ宛ての文書になるのですか。

○黒川総務課長 名義は多分委員会名義ではなくてもっと実務的な、誰になるかは聞いていないのですが、規制庁の誰か。管理官なのか誰か分かりませんが、誰かそういう人の名義の紙になるということのようです。

○記者 原子力規制庁から東京電力。

○黒川総務課長 規制庁から東京電力宛てという。

○記者 確認ですけれども、そうすると、明日の定例会のタイミングでは、そのフェーズⅡの検査を開始したというのは厳密には違うということなのですか。

○黒川総務課長 厳密に言えば、同日中に開始されることになったみたいなのが、多分そのタイミングでは正しいのだと思うのですが、あまりそこの厳密性にどこまでこ

だわる意味があるのかという気はしますけれども、一応そういう手順は踏むとは聞いています。

○記者 開始することを決めたというのは、定例会のタイミングなのですか。それとも、臨時会議の段階でもうフェーズⅡの検査を行うことは決めているという、どちらでしょうか。

○黒川総務課長 一応そこは明日の公開の定例会で決めたという整理になります。

○司会 すみません。ちょっと待ってください。

オカダさん、もう御質問はよろしいですか。

○記者 大丈夫です。ありがとうございました。

○司会 ほかに御質問がある方はおられますか。

ヤマダさん、お願いします。

○記者 関連なのですが、既に公表されていたらすみません。来週のKK（柏崎刈羽）の現地検査ですが、その日程は明日の委員会以降決まるという認識でよろしいでしょうか。

○黒川総務課長 はい。そこはそうなります。

○司会 ほかに御質問はございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。

ありがとうございました。

—了—